



- ・進んで学ぶ生徒(知)
- ・心豊かな生徒(徳)
- ・たくましい生徒(体)

折れる音

「〇〇の折れる音」は、聞いたことがありますか。今日は、クイズから入りましょう。これから3つの音を流します。「何かが切れる音、何が折れる音です。よく聞いて当ててみてください。」

1、「ペロロロ」テープをはがす音 2、「ボキ」骨を鳴らす音 3、「バキ」骨の折れる音、以上3パターンの音です。「わかりましたか」では、「折れる音は、何番目でしょう」？
そう「よくわかりましたね」3番が折れた音でした。

どれも、あまり聞きたくない音ですが、実は、私は、人の骨が折れる音を聞いたことがあります。随分昔のことですが、一番ひどかったのは、3年生の卒業直前の球技大会の時、その試合で、すごく頑張っていた生徒がプレー中に人と接触し、足の大腿骨を骨折した時のことです。本部席にいた私に「ボキ」と言う音が聞こえてきました。その生徒は、運動が盛んなサッカー部への進学が決まっていたましたが、1年間治療にかかり、残念ながら留年してしまいました。しかし、その後、持ち前の明るさとガッツで立派に卒業しています。



さて骨折の治療の場合は、まずは、固定して骨が成長し、回復するまで時間をかけて治すのが一般的だと思いますが、例えば「心が折れた時」は、どのように治療するのでしょうか。そもそも、心が折れるとよく言われますが、どんなことなのでしょう。また、音は、するのでしょうか。その意味は、諸説あるようですが、「心が折れる」という意味は、だいたい目標を持って、すごく努力してきたが、うまくいけなくなり八方塞がりとなり、やる気を失ってしまうことであったり、信じていた人に裏切られ、何を信じていいのかわからなくなったり、人間関係に疲れ自分の身体なのに、思うように動けないことを感じたりすることが代表的なものでは、ないのでしょうか。

実は、私にもこれに似た経験がありました。私の場合は、折れたというより、心の糸が切れたと表現した方が近いかもしれません。

それは、ある学校に校長として赴任した年、台風の影響で体育館裏の擁壁が崩れ、体育館が土砂に埋まり、使用できなくなった時でした。朝の7時に現場で見た風景は、今でも忘れられません。擁壁の上にあった家々は、家の土台の土がなくなり、家は、崩れてできた谷に落ちて、駐車場の車もその谷に落ちていました。下水道管や水道管は、崩壊し流れ出ていましたし、あたりは、ガス臭くて危険な状況です。



その時、自分の中で何かが切れたのです。実は、その年に校長として赴任した私の目の前には、学校の問題が山積にされ、毎日多くの課題と向き合っていました。同時に多くのことを行わなくては、ならない期間が続いていたのです。その直前には、教職員による事故などもあり、マスコミにさわがれ、学校の信用は、細い糸一本でつながっているような状況でした。そして、この状況です。しばらく放心していたというか、景色は、はっきり見えているつもりでしたが、現実が見えていないというのか、そんな状況でした。とりあえず、その後の対応も、精一杯、対応していたつもりですが、なにをしても達成感や充実感の無い空虚な気持

ちのまま数週間が過ぎていきました。

私が、我を取り戻した瞬間は、何気なく校長室から校庭を見た瞬間でした。そこには、生徒たちが、平面図に向かって一生懸命取り組んでいる姿が見えました。間近に迫ったミュージックで行われる合唱コンクールに備え、舞台への入退場の練習を行っていた姿が見えたのです。グラウンドにミュージックの舞台の大きさを想定し、同じ広さのスペースをラインカーで描き、階段もラインカーで書いてありました。その状況で生徒が一生懸命練習しているのです。私は、それを校長室で見て、涙が一気に噴き出しました。それと、同時に我に返ったのです。今まで切れていた糸につながったというか、霧が晴れたというのか、言い方は、少し変ですが、何か物事が自分のこととして見えてきたのです。その災害から体育館の完全復旧までには、まる3年かかりました。その間、学校内には、常に大きな重機と



シンボルツリーの新緑（中庭）

トラックが土砂や資材を運んで通行している状況です。それ以外にも今までの人生を振り返れば、多くのことがありました。校長として辞表を胸にし、お叱りを受けることもありました。

しかし、どんな暗闇の世界に自分がいても、小さな一筋の光が見えた瞬間に「まだ、やれるかも?!」と何度も思えたのでした。今日この話をしたのは、私の単なる苦勞話を皆さんに聞いてもらうためにお話ししたわけではありません。一生懸命やっている人ほど、頑張ることが苦しくなり、自分が、思うように頑張れないと感じた時、「私は、こんな考えだから、こんな自分だからダメなんじゃないか」と思う人がいます。それは、特に休み明けなどの日常の忙しい日々に戻る頃に多いようです。普段ですと、「ただもう少し休みたいな」位ですが、長い休みの後は、「また頑張らなくては、いけない」と必要以上に考えてしまい、GW明けをはじめ長期休業明けなどに、学校に足が向かなくなったりする人がいます。

今日は、自分を苦しめてほしくないのので、このような私の話をさせていただきました。私のように燃え尽きてしまったように「心が折れる音」がしても、自分を否定せず、時間をかけて、普通の毎日を心掛け日々を重ねていけば、必ず助けてくれる人が出てきて来ます。そして、解決のきっかけや手段を見つけることができます。

明日からは、GW期間に入ります。小学校の卒業期から忙しい日々を過ごしていた1年生の皆さん。そして、3年生を送る会から卒業式、入学式・始業式、新学期、と頑張ってきた2・3年生の皆さん、もし、今が、苦しい状況だったら、それだけ努力していたと（信じた）自分を労ってあげてください。先生方も同様です。どこかで少し「ほっと」息を抜いて、また少しずつ頑張らしましょう。今日の話は、「折れる音」をテーマにお話ししました。最初の方の音で気持ち悪く思った人がいたらごめんなさい。「折れる」という表現を感じてもらいたく導入で使わせてもらいました。

でもゴールデンウィークでは、怪我や事故なく元気に過ごしてください。

【お知らせ】学校だよりでは、時々生徒の活動場面の写真をのせることがあります。写真の掲載を希望されない方は、学校まで必ずお知らせください。

【お願い】学校では、朝、午前8：15～8：30までの間、職員の集会及び学年打ち合わせを行っています。（その後、教員は、生徒のところに行き朝学活となります。）大変恐縮ではありますが、欠席連絡は、今年度：「テトル」を使用し、ご連絡いただくこととなっております。毎日の朝の打ち合わせでは、日程確認から生徒一人一人の配慮事項について確認し、対応する大切な時間となっております。何卒ご理解いただきご協力いただきますようお願いいたします。尚、急な対応については、対応いたしますので、お知らせください。

